

## 「アラブ調査室」の系譜と実績

2020.11

### 1975年～2020年9月

一般財団法人昭和経済研究所「アラブ調査室」は、1975年に渥美堅持氏（現東京国際大学名誉教授）が国際商科大学（東京国際大学の前身）に勤務すると同時に同氏を室長として開設された。

渥美室長は、拓殖大学政経学部卒業（1964年）後、エジプトのアズハル大学に現地政府の官費留学生として遊学した。1971年に帰国した後、エジプトでの経験を踏まえて、アラブ政治情勢分析を専門に活動し、「アラブ調査室」室長に就任した1975年以降は、同調査室を拠点にアラブ中東地域に関する情報誌『中東季報』（年4回）を刊行すると共に、田中塾や扶桑塾の塾長、アラブ戦略問題懇話会の代表世話人などとして、アラブ地域事情に関心を寄せる有識者や研究者との交流維持に努めた。

また、同室長は、財団法人中東協力センターの月刊誌『中東協力センターニュース』に毎月アラブ政治情勢分析を25年間にわたり寄稿すると共に、求めに応じて多くの研究機関や大学などで講義を行い、また、定期的に中東情勢分析報告会を開催した。

2008年に東京国際大学を定年退職して名誉教授に就任後も引き続き2020年9月まで「アラブ調査室」室長を務め、関係方面にアラブ地域の政治動向についての的確な分析・解説を提供した。

瀧田眞砂子専任研究員の尽力により45年間にわたり出版されてきた『中東季報』は第180号（2019-IV）（令和2年3月31日発行）を最後に刊行終了となった。なお、助手として「アラブ調査室」の業務に参画していた高橋光男氏の手により、『中東季報』の第1号から最終号までの内容を収録したCD「中東ニュース」（'75～'19）（監修 渥美堅持、編集 瀧田眞砂子）が発行された。

### 2020年10月～

2020年10月1日に塩尻和子（筑波大学名誉教授、前東京国際大学特命教授）が「アラブ調査室」の室長に就任し、長年にわたる渥美堅持室長及び瀧田眞砂子専任研究員の尽力による実績と時代の変化を踏まえて心機一転新たな出発を迎えた。